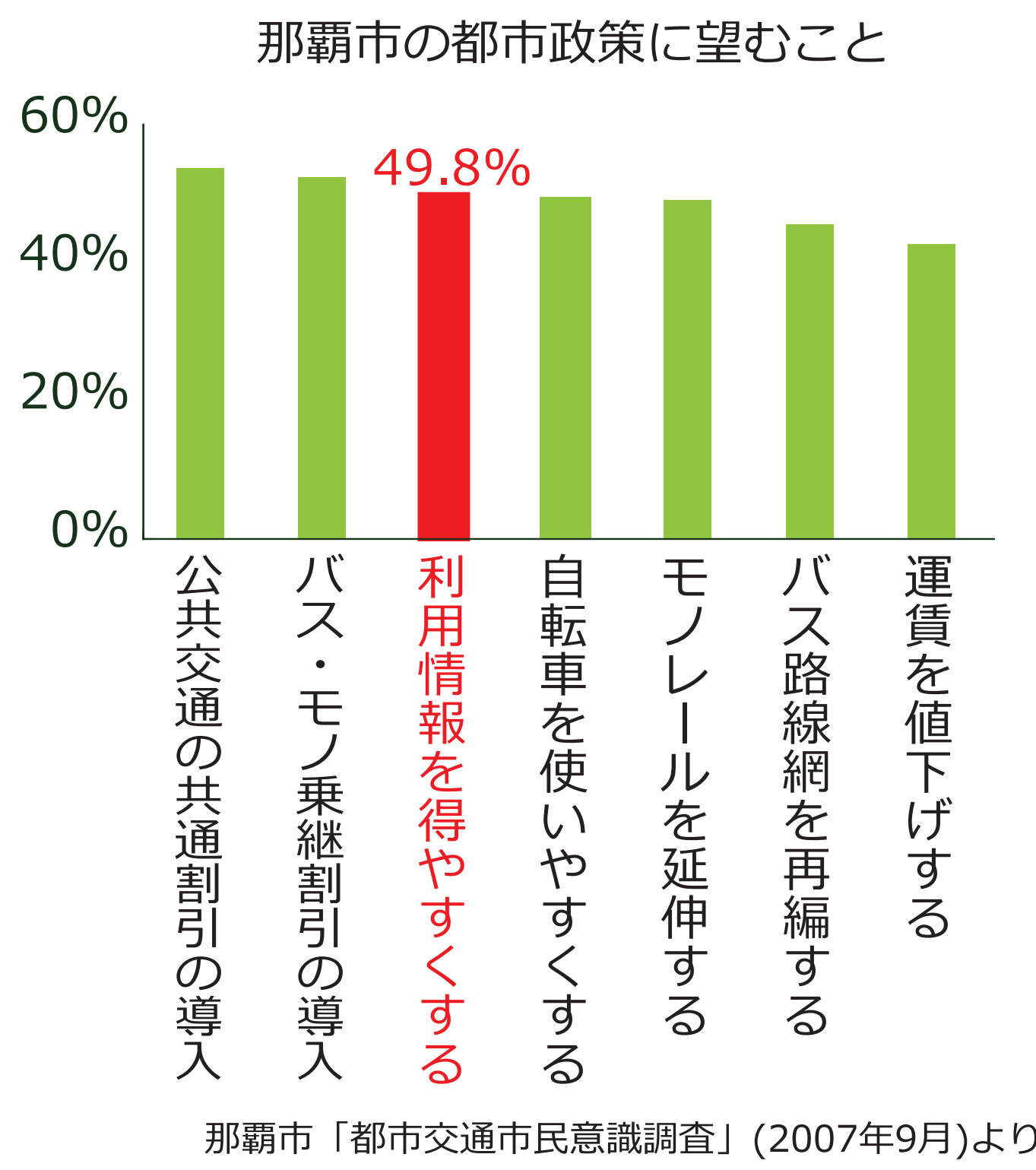


# 公共交通マップをじっくり読みこなす - バスマップ勉強会とその効果について

バスマップ沖縄 谷田貝 哲、沖縄県立看護大学老年保険介護助教 山口 初代 | 2018/7/27 第13回日本モビリティ・マネジメント会議

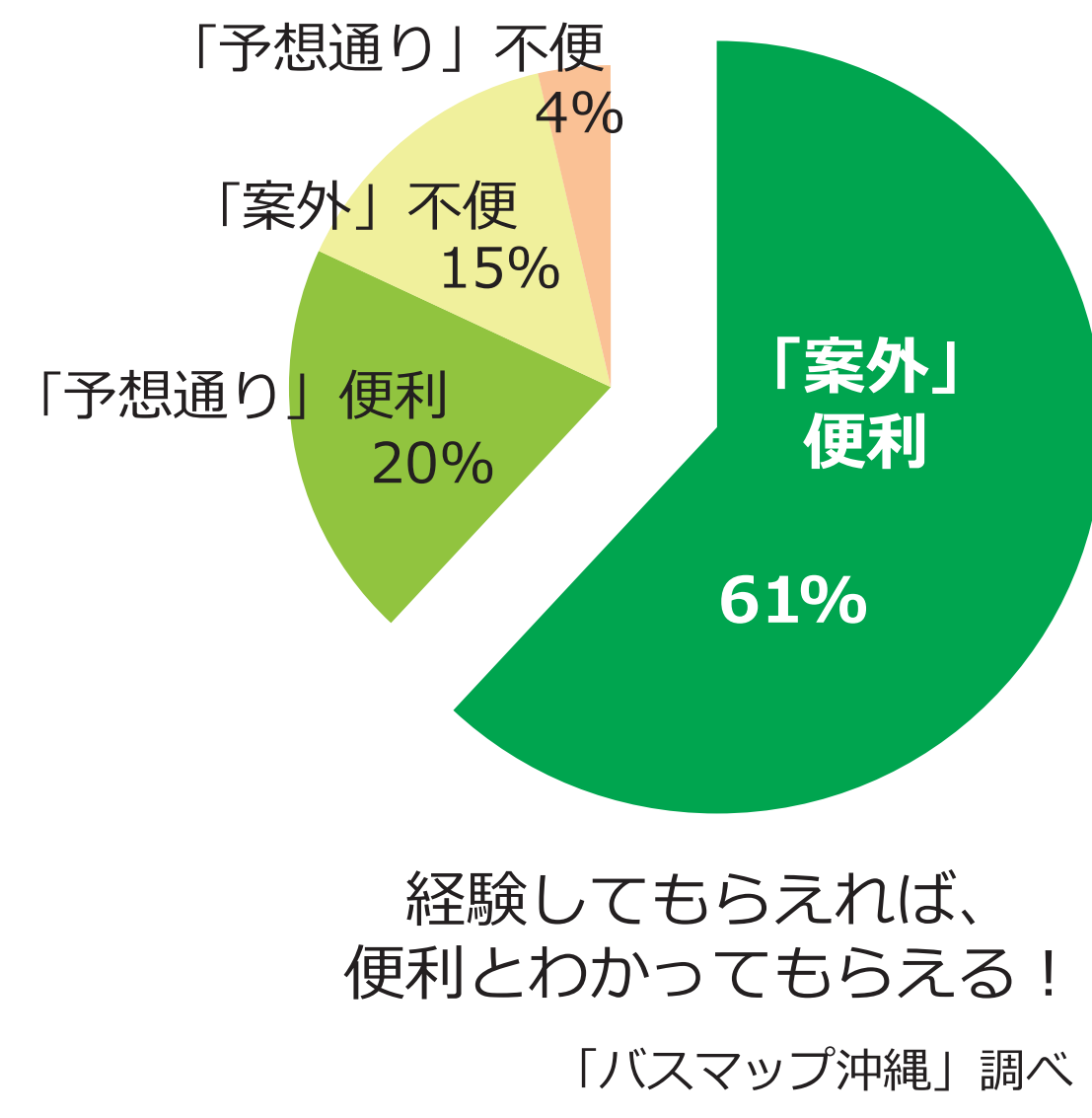
## 沖縄にはバスがたくさん走っている。が…

### バスがわかりづらいという声は多い



### わかりづらいが不便ではない

バスマップを入手し、クルマの代わりにバスでお出かけしてみたときのバスは



### そのことを知ってもらう機会があれば…

#### 沖縄高齢者ケア研究会

- 「豊かな老いと地域づくり」を趣旨とした定例の勉強会
- 沖縄県立看護大学の研究者を中心に、住民や保健医療専門職、行政職などで構成
- 「車を持たない老いの暮らしの設計を話題にするなかで、バスの使い方を知りたいという意見が多数。(中略)本研究会で話題提供できないか」
- 「車を持たない暮らしが未来数年の間にある方も複数いらっしゃると思いますので、バスマップの見方にそれぞれ関心大です」

→ 2017年10月、2日間の勉強会を開催

#### 第36回 沖縄高齢者ケア研究会

公共交通手段のひとつとしてのバスは、老いの暮らしの移動にかかせないものです。今回は、バスの活用のプロから「クルマ社会からの脱却と公共交通の活用」について話題提供して頂きます。クルマの運転を放棄しても楽しく外出できる方法を話し合います。

～皆様のご参加、お待ちしております～

日時	平成29年10月20日(金) 18:30～20:00
場所	沖縄県立看護大学 2階視聴覚室
テーマ	「老いの暮らしに必要な情報入手～クルマ社会からの脱却と公共交通の活用～」 話題提供者:バスマップ沖縄 谷田貝 哲 氏
会費	会員:無料 非会員:200円

申し込み FAX又はメール  
申し込み期日:10月18日(水)  
TEL/FAX: 098-833-8809  
E-Mail: hyamaguchi@okinawa-nurs.ac.jp  
沖縄高齢者ケア研究会 担当(山口)

※当日は駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

## 沖縄高齢者ケア研究会「老いの暮らしに必要な情報入手～クルマ社会からの脱却と公共交通の活用～」

参加者：約30名

### 一日目：沖縄の公共交通の現状についての座学を実施座学

#### 参加者属性 (アンケートより)

- ・女性が8割、60歳代以上が4割、那覇市居住者が6割

#### 沖縄県はクルマ依存社会

- ・クルマ依存ぶりを示す様々な指標の紹介

#### クルマ依存はあなたにも悪影響

- ・コストの高さ、事故リスク、健康、子供の成長等

#### バスは不便？ そうでもないかも

- ・高い？ 本数少ない？ 時間かかる？ → そうでもない

#### バスはむしろ便利

- ・便利な路線や便利な乗り方、割引きっぷの紹介

#### クルマに頼らずに暮らそう

- ・クルマ社会でも、バスを使っている人は使っている

### 二日目：バスマップを見て、行きたいところにどうやったらいけるか考える (和気あいあいの質疑応答)

バスの基本的な説明(系統番号のルール、お得な運賃、バスロケの使い方など)ののち、「バスマップ沖縄」の読み方を紹介した。その後は時間の限り、参加者の具体的な質問に対し具体的に説明・回答していった。

- 目的地の最寄りのバス停がわからずに、県庁やパレットで用事があるときに、県庁南口で降車して、歩くのが大変だった。
- バスターミナル行きと表示して走っているバスを見かけたが、バスの走行ルートがわからないため、乗車を戸惑った。バスターミナルといっても、石嶺なのか、南風原なのか、那覇なのか、区別ができず、不安があった。
- 特に、乗り換え無しで行けない目的地の場合に、行き方の選び方がわからない。
- 友人が、池端というバス停が首里城公園に変わっていることを知らずに、間違っ降車した。バス停の名前は変更される場合があるのだ。
- ターミナルだと時刻表がもらえる場合もあるが、バス停に提示されている時刻表は赤字が見えにくい場合がある。

## 研究会実施後の、参加者の具体的な意識・行動変容

参加者：約15名

研究会への参加による、バス利用促進効果の有無を把握するため、アンケートを行った。一次アンケートは、研究会参加者全員に配布し、当日、28名から回答を得た。二次アンケートにも協力可と回答いただいた17名を対象に、研究会5か月後、二次アンケートを実施。13名から回答を得た。

### バスマップがあればバスの利用が

一次アンケート 20名 6名 1名

二次アンケート 9名 3名

■ (バス) 増える/増えた (クルマ) 減る/減った ■ 変わらない ■ わからない  
※クルマの利用の「変わらない」には「もともと使っていない」を含む

半数以上の回答者に、バス利用の増加、クルマ利用の減少がみられた

### バスマップがあればクルマの利用が

一次アンケート 9名 10名 3名

二次アンケート 5名 5名

### 研究会後、クルマの代わりにバスでお出かけしたことが

あった 11名 なかった 2名

その時利用したバスは

案外便利 6名 無回答 1名

予想通り便利 2名 予想通り不便 2名  
過半数の回答者が、「バスは『案外』便利」と実感

### 研究会参加後の意識変化

(■ある ■ない n=13)

- 街なかで、バス停の存在に気付くようになった 13名
- お出かけ先が、バスで行けるか調べる時がある 12名
- 街なかで、バスの存在を意識するようになった 11名
- 研究会で入手したバスマップを眺める時がある 11名
- 運転免許を返納した、または返納を考えている 9名
- 車の台数を減らした・または廃車を考えている 10名

### 参加者の具体的な行動変容例

- 先週の日曜日から早速、空港への移動はタクシーからバスへチェンジして、案外便利なことを体感しました。
- 「最寄りのバス停の時刻表はバス会社に依頼してFAXで送ってもらっておくと便利」とそれぞれの活用の仕方を共有したり、「新たに移転された農運市場に行きたいけど、駐車に不安があるのでバスで出かけてみる」など、外出先に合わせて選択肢が選べるようになった。
- 長距離運転には不安があるので、やんばる急行バスを活用して北部へ日帰り旅行をした。おしゃべりも楽しみ、疲れても遠慮なく車内で休むことができた。
- 駐車場がないところへの外出は、バスを利用するようになった。歩く機会も増えたような気がする。
- 空港や県庁への用事は自家用車からモノレールでの移動に切り換えた。利用してみると、身近な距離に頻りに路線が走っていることがわかり不便感も無くなり、移動中周囲の景色が楽しめるようになった。
- 離島に出張するときは車を持ち込んだり、レンタカーを借りていたが、バスを使うようにしている。地元の観光協会の人にも喜ばれ反応が良く、費用も安くすんでいる。

## 結論・今後の展開

- このような勉強会を行うことで、クルマ利用からバス利用への行動変容が確実に発生することが分かった。
- 普段バスを使わない人がバスを使った際に「案外」便利と感じる割合は半数強に上った。バスは「食わず嫌い」である。バスを使わない人に、「試しに」「だまされたと思って」いかにバスに乗ってもらうかが重要である。
- 非常に効果のある取り組みであり、今後も継続的にバス利用を促す機会を設けていきたい。特に、自身の生活の中にバスを位置づける「マイバスマップ作り」を検討したい。

## 連絡先

バスマップ沖縄 谷田貝 哲  
〒900-0004 那覇市銘苅2-3-1  
なは市民活動支援センター内  
050-5539-6493  
yatagai@kotsu-okinawa.org